

# たかけい学報

The Bulletin of Takasaki City University of Economics

高経大生の  
キャンパスライフを  
サポートする情報誌



01-04  
高経大生の  
「ガクチカ」を  
調べてみた!

- 05-06 卒業生に聞く!
- 07-08 研究室紹介
- 09 学生クローズアップ
- 10 留学体験記
- 11-12 学科・学会ニュース
- 13 鶴鷹祭/三扇祭
- 14-15 たかけいINFORMATION

no.

108

# 「ガクチカ」を調べてみた!!

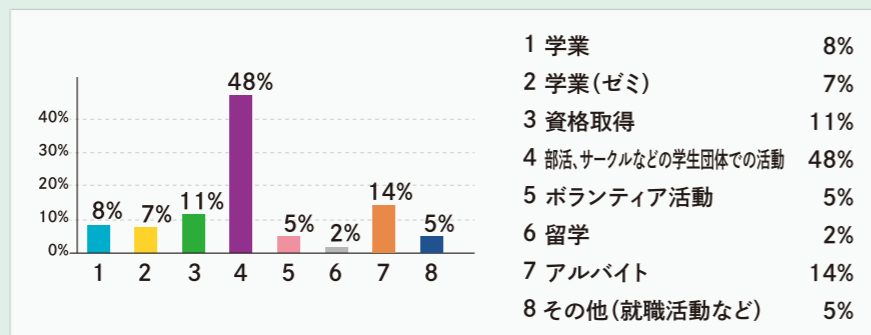
最近、耳にすることが多い「ガクチカ」という言葉。ガクチカとは「学生時代に力を入れたこと」の略とされています。コロナ禍で思い描いていたような学生生活ができない中、留学やボランティア活動、部活・サークルなど様々なことに挑戦ができず、不安やもどかしさを感じている学生もいるのではないのでしょうか。もちろん、大学の外へ飛び出して、海外や社会の中で経験することも大切です。しかし、一番大切なのは経験の大小ではなく、そこから「何を学び」「どのように成長できたか」です。コロナ禍で工夫して学生生活を送ってきた学生の「ガクチカ」を紹介します。

## 3・4年生に聞きました!

question!

01

学生時代に力を入れたこと(入れていること)は?



- 学生ならば学習することが重要だと思う(学業)
- いろんな経験をしたい(アルバイト)
- 高校でもやっており、その時に後悔したことがあったので、今度こそ悔いの残らないようにしたいと思ったから(部活・サークル)
- ゼミ内で、学内外のプレゼン大会に出ていて、その準備に取り組んだことがきっかけとなった(ゼミ)
- 勉強というものに取り組んだということを可視化するため(資格取得)
- コロナが流行り、それで困った人が近くにいる、たまたま彼らを助ける活動が必要になったため(ボランティア)
- 海外に行ってみたかったから(留学)

question!

03

苦労したこと、失敗したことは?

- 敬語や電話応対が苦手で、言葉の使い方がおかしくなってしまうことや、早口になってしまうことが多かった(アルバイト)
- オンライン授業の課題提出。課題一つ一つの質を追求できなかった。1年次から学業にもっと注力するべきだった。(学業)
- コロナの影響で活動ができなくなり、部員の間でモチベーションが大きく低下したこと(部活・サークル)
- グループ研究を進める際、メンバーの意識の差があって思う通りに準備が進まなかったこと(ゼミ)
- 勉強との両立(ボランティア)

question!

04

得たこと、成長したことは?

- カリキュラムにある学習以外に、課外の知識も必要(学業)
- 決して諦めないこと。やはり自分で努力をしなければ、結果を得ることができないこと。試験に合格すると自信に繋がる。(資格取得)
- 礼儀、コミュニケーション能力、相手が何を考えているのか常に考えること(アルバイト)
- 上手くいかないことがあっても別の策を考えて動けるようになった(部活・サークル)
- プレゼン力。各人の得意なことを把握し、全体の進捗を考えながら仕事を割り振ることで、チームワークも全体の進捗も良くなる。(ゼミ)
- 見切り発車でもなんとかなる。自身の強みを知った。(ボランティア)

辛いことがあっても続けていけば絶対にいいことがあると思うので頑張ってください。

失敗をしてもいいと思うので行動範囲を広げて何かしらに挑戦してみてください!!!

1・2年生のうちに単位とりましょう!

苦労したことや大変なことも、いつかこの経験を活かせるように精一杯頑張ってください。応援しています。

人と比べず頑張ってください。と思います。

主体的に挑戦している姿はとてもカッコイイです。周りの方々の力を借りながら一緒に頑張りましょう。

びっくりするくらい盛り上げちゃってください。私達はそういうことできる状況じゃなかったのだから、変わりだした社会に適応して、面白いことに積極的に取り組んでください。

question!

05

1・2年生にメッセージ!

まずは自身の興味あること、部活やゼミ、勉強に集中することをおすすめします。(もちろん遊びながら)

辛いことや大変なことが沢山あると思います。また人間関係などで悩まされることも多々あると思いますが、自分を信じて自分を大切に頑張ってください。

私は勉強ばかりで、人間関係をおろそかにした部分が少なからずあり、それが大学生活での後悔です。もう少し遊べばよかったと思っています。遊びも学びです。しかし学費を保護者に払ってもらっている以上単位を取ることも大切。どちらの学びもいつか自分の役に立つと思って、バランスよく取り組んでください。

うまくいかなかったことや、思い通りにいかなかったことは、失敗ではなく、経験です。将来大成功をするための道のりだと思って頑張ってください!!! 応援しています!!!

様々なことに挑戦している皆さまは私にとって励みになります。今後も、謙虚な気持ちと周囲への感謝を忘れず、皆さんなりに大学生活を彩ってください。高経大生の活躍を期待しています!



学生時代に力を入れたこと

## 学生団体での活動(熱血!高校生販売甲子園)

経済学部経営学科  
山谷 孟央 (青森県出身)



大学生活の中で、私は「熱血!高校生販売甲子園」という団体に所属していました。「熱血!高校生販売甲子園」は、高校生が高崎市の大手前通りにて、3ヶ月間準備してきた自慢の商品を2日間販売して優勝を競い合う、熱き販売バトルです。高校生の時から、大学ではマーケティングについて学びたい、また、団体やイベントの企画・運営を行いたいと思っており、そういったものができる販売甲子園でこれまで過ごしてきました。

過ごす中で一番苦労したことは、実行委員長として所属する学生をまとめる役をこなしてきたということです。販売甲子園は、学生約120人が所属している団体です。中には、自分と違った考えの人ももちろんおり、実際に大会の運営時には、高校生が販売するためのテントをいくつ立て

るか、またその中にイス、テーブルを何個置くかについて多くの意見がある中でまとめていました。また、各班では高校生が販売する商品をどのようなものにするかということも話し合っており、そういったものの管理、まとめ役としての活動にはとても苦労しました。

そういった活動を通して、多くの人をまとめる力や、また、ここぞというときには、信念を貫き通して、みんなを同じ方向に向かせるということが大事であるということ学びました。

私も、大学生になって自分が何をしたいのか、悩んだこともありました。ですが、大学生活は1回きりのかけがえのないものです。講義はもちろんですが、今しかできないこと、さらには高経大に入ったからには、この大学でしかできないことを頑張りたいと思います。



学生時代に力を入れたこと

## 教員免許取得(教員採用試験)、部活動

地域政策学部地域づくり学科  
中村 嘉孝 (熊本県出身)



高校生の時から、将来は高校の教諭になりたい、さらには野球部の監督になって甲子園に行きたい、最終的には、熊本県勢初の夏の甲子園優勝を果たしたいという野望があり、大学では教員免許取得、部活動に力を入れました。

その中でも、一番苦労したことは教員採用試験に向けた勉強だったと思います。4年でも野球部での活動に力を入れていたので、学習時間を確保するのに苦労しました。野球部の練習が昼からだったため、午前中と練習後は図書館にこもることで学習時間の確保に努めました。練習試合や遠征の時には、移動中に参考書を読んだり、後輩に問題を出してもらったりするなどの工夫をおこないました。実は、試合後のミーティングの際に勉強のことを考えていてミーティングの内容が頭に入ってこ

なかったことも多々ありました(キャプテン・監督さんごめんなさい)。

私が成長できたと感じたことは、信念を貫き通すことができたことです。民間の就職活動も行った結果、数社から内定も頂き心が動きそうにもなりましたし、野球に熱中してしまうこともあって勉強がおろそかになりがちな時もありました。しかし、教員になることと甲子園に行くという信念を持ち続けられたからこそ、最後まで努力を継続することができたと思います。

後輩の皆さんも「やるか」「やらないか」は結局自分次第なので、夢や目標があるのであれば「やる」という選択肢をとってほしいです。そうすれば後悔することはないと思うし、大学生活がもっと充実すると思います。頑張ってください!教員採用試験を受けたいと思ってる人は、一次は根性で勉強、二次は運も必要??ということ覚えておいてください。



学生時代に力を入れたこと

## 学業(ゼミ)、ボランティア活動

地域政策学部観光政策学科  
高橋 佳祐 (新潟県出身)



私が所属する八木橋ゼミでは、市内にある榛名神社の社家町の地域振興活動に、ボランティアとしてかかわっています。この活動は、20年近く前に本学名誉教授の戸所隆先生のゼミが始められたもので、本ゼミが3代目にあたります。本学のゼミによる伝統ある地域貢献型のボランティア活動です。

私はこの活動に参加するにあたり、初めて訪れる観光客の方に対して観光地の魅力を発信するガイドの経験は、ほとんどの人が経験できないことであり、今後社会人となる上でも必ず生きてくると思いました。また、座学で学んだ知識をアウトプットできる絶好の機会でした。

ボランティア活動を行ってみて、観光客の方に対して、わかりやすく伝えるにはどうしたらいいのか、伝え方の習得に苦労しました。歴史ある

観光地の為、書籍に載っている単語は難しいものばかりであり、歴史についての予備知識がない方には理解しにくい内容ばかりでした。その単語を現代の馴染みある単語に言い換え、いかに分かりやすく伝えるか、そして興味を持って聞いていただけるかを考えることが大変でした。

これらの経験をとおして、相手の立場になって考え、行動する能力が身についたと思います。特にガイドの流れについては、観光客の方にいかに楽しんでもらえるかを考えながら試行錯誤したこともあり、自身が大きく成長できたと考えています。

時間や機会がたくさんある学生時代でしか取り組めないことは多くあります。興味を持ったことに対しては後悔しないよう、全力で挑戦してください。



私のガクチカ

経済学部  
唐澤達之 教授

## 「ジャズ」

学生時代は4年間、大人数編成でジャズを演奏するビッグバンドのサークルでアルトサクソフーンを吹いていました。長期休暇中の一時期を除くと、ほぼ毎日同じメンバーと顔を合わせて練習していたので、学生時代に最も時間を費やしたことのひとつだと思います。当時自分のなかでは、ただただ好きで面白いからやっていただけで、何か将来につなげたいとかは、全く意識していませんでした。ただ、今もなお響いていることといえば、ひとつは、好きなものが見つかってそれを思う存分できたこと、そして今でも好きだと思えるものを見つけることができた「充足感」・「満足感」でしょうか。案外こうした感覚が、社会人になって少ししんどいことに直面しても、心の安定を保てる力の源泉になっているような気がします。もうひとつは、大人数編成のバンドでは、演奏する楽器も譜面もみな違い、一緒に練習すればするほど一人一人の役割や個性の違いも際立ってくるのですが、バンドとして音を一塊にして出したときに一人一人の音が全体の中でどのように響くのかを自然に意識するようになったことでしょうか。社会人として組織のなかで働いていくうえで、ちょっとしたヒントになっているような気がします。

私のガクチカ

地域政策学部  
友岡邦之 教授

## 「無用の用を究めること」

私は大学進学に際して、ある明確な動機をもって文学部を選択しました。それは、大学では何の役にも立たないようなことを学びたい、というものです。当時の私は、何かの役に立つかどうかを問わずに知を追求する姿勢というものに憧れを抱いていて、その点で文学部は最適な学部といえました(別に文学部を馬鹿にしているわけではありません)。もちろんこれは、今思えば随分と青臭い動機です。しかし当時の私は、この動機に忠実に文学部での学びを進めていきましたし、それだけでなく、本当に先の人生において何の役にも立ちそうにない映画や音楽、美術や舞台作品を鑑賞し続け、文学作品を読み耽りました。

さて、この文章のオチはもうおわかりだと思いますが、結局このような私の行為は、少なくとも私にとっては役に立たないようなことではありませんでした。当時の多くの鑑賞経験は、現在の私の生き方や価値観の基礎を形作っています。むしろこのように役に立ちそうにないことに没頭する時間は学生時代にしか確保できないわけで、その意味で私は、結果的に学生生活を有効に活用したともいえます。手本になるようなエピソードではありませんが、この話を人生の目的と手段について考えるための一助としていただければ幸いです。



# 卒業生に聞く!



Q1. 高崎市の率直な印象 Q2. 高崎周辺おすすめグルメ Q3. 大学生活一番の思い出 Q4. 後輩へのメッセージ

経済学部



塩浦 廉也  
(東京農業大学第一高等学校出身)

- A1 程良く田舎で災害も少なく自然を楽しめる街です!
- A2 ラーメンとパスタが有名ですが「絶メシ」という歴史ある定食屋がたくさんあります。
- A3 ウインターカップ(大学1年)関東大会への切符を勝ち取りました。
- A4 たくさん出かけて色々な物に触れてほしいです! ハメをはずすぎないようにね!

経済学部



門伝 駿  
(昌平高等学校出身)

- A1 車があれば住みやすい街。
- A2 グルー(パスタ屋)。
- A3 1年の時に行った水泳部の夏合宿。
- A4 貴重な4年間なのでやりたいと思うことがあつたらすぐ実行してみましょう!

経済学部



丹野 太賀  
(北嶺高等学校出身)

- A1 地元には、スーパーと小さなおもちゃ屋しかなかったので、十分盛り上がっていると思います。
- A2 麺類。もつ煮。スーパーのキャベツが安い。
- A3 ゼミが大変でしたが、とてもやりがいがありました。
- A4 大学・世代・サークルの垣根を越えて、色々な考え方、生き方に触れると良いと思います。

地域政策学部



外所 耀  
(高崎商科大学附属高等学校出身)

- A1 21年間生まれ育った場所で、自然豊かで住みやすく大好きな場所です!
- A2 ・星のイタリコ ・cafe六花 ・colors建築芸人舎
- A3 井門ゼミで全国各地に行けたこと。たくさんステキな人達に出会えたこと。
- A4 たくさんの人との出逢いを大切に、思いっきり楽しい4年間にしてください!

地域政策学部



浅川 真衣  
(群馬県立高崎女子高等学校出身)

- A1 都会すぎず田舎すぎず、生活に最適なまち。美味しいものいっぱい!
- A2 ホルモンひろ(焼肉)、エスト(パスタ)
- A3 体育会に入り、部内外かわらず沢山の大切な友人に出逢えたこと。
- A4 出逢えた仲間は一生の宝物。今しかできないことを楽しんでください!

経済学部



田中 鼓太郎  
(長野県上田築谷高等学校出身)

- A1 都会だけど都会じゃない。東京にも近く住みやすいです。
- A2 まるぶしとんや だるま大使
- A3 部活やサークルでの活動を通してたくさん友達が出逢えたこと。
- A4 自分のやりたいことに時間を使い、人との関わりを大事にしてください。

地域政策学部



宮田 祐大  
(茨城県立下館第一高等学校出身)

- A1 田舎と都会の中間。丁度良い、暮らしやすい。
- A2 からさき食堂(白い恋人オムライス)。シャング(シャング風パスタ)。
- A3 陸上競技の練習でアメリカに行ったこと。ゼミで出場した野球大会。
- A4 皆さん、ぜひ高経に入学して、超イケメンなこの私の後輩になってください!

経済学部



青木 花琳  
(新潟県立長岡大手高等学校出身)

- A1 パスタ、からっ風、日帰りデイズニーに行けることに感動。
- A2 colors建築芸人舎、からさき食堂、湊生(ラーメン)。
- A3 陸上部の活動。初心者でしたが、周りに恵まれ4年間楽しく走り続けられました!
- A4 沢山のことに挑戦して有意義な大学生活にしてください!

地域政策学部



板垣 哉汰  
(群馬県立桐生高等学校出身)

- A1 だるまとパスタ。
- A2 シャングのシャング風パスタ。
- A3 学生団体の活動。素敵な仲間と出会えて、人間的にも成長できたと思っています。
- A4 大学生活はほんとに一瞬です。いろんな経験をして、自分磨きに励んでください!



経済学部経済学科  
菊地 凜  
福島県立白河高等学校出身



101号  
新入生代表時



私は高崎経済大学で過ごした4年間でたくさんの思い出と学びを得ることができました。

多くの方と出会い、様々な考え方に触れることができ、これからの自分のなりたい姿、進みたい道を考える良い時間だったと思います。

高校時代地理に関心を持ち、地理や貿易、経済について学べると思い経済学部に入學しました。関心のある講義を受講する中で、それまで漠然と興味を持っているに過ぎなかっただけの状態から、自分がどんな分野のどんな点に面白さを感じているのか明確に分かるようになり、そこから多くの別の分野にも関心を持つようになりました。4年間の学びの中で、知識をつけることで世界の見え方が大きく変わることを実感できたことはとても大きい経験だったと思います。

学問だけでなくアルバイトを通じた経験も大切な学びになりました。私は入学して半年後に始めたアルバイト先でこの冬まで3年半働きました。3年半働いてきた中で、大学に在るだけでは関わることのなかった多くの方と出会い、人生の先輩方から多くのことを

学びました。学生の本分は勉強とは言いますが、私は新社会人として社会に出るまでに働くことを経験しておくことも大切ではないかとも思います。

大学で出来た友人との関わりも、かけがえのない大切な思い出となりました。それぞれ様々なことに興味を持った個性的な友人からは多くの刺激を受け、興味の幅を広げるきっかけをもらったと思います。

勉強、アルバイト、友人との関わりから大切な学びを得ることができた大学生活は私にとってとても有意義な時間でした。お世話になった多くの方々には大変感謝しております。大学生活で感じた人とのつながりが自分にとってとても大切なものであると気づいたことから、誰かの力になる職、人と関わる職に就きたいと感じ、それがかなう会社から内定をいただくことができました。新年度から社会人として新しい生活がスタートします。今は新生活への期待と不安が入り混じっていますが、この4年間で得た学びを糧として日々頑張っていきたいです。





## SHIOZAWA KOHEI

経済学部 経済学科 講師  
塩澤 康平

研究分野/  
ミクロ経済学、顕示選好分析

学位/  
博士(経済学)(大阪大学)

担当授業(学部)/  
経済数学入門I、経済数学入門II、情報の経済学、基礎演習、演習I・II

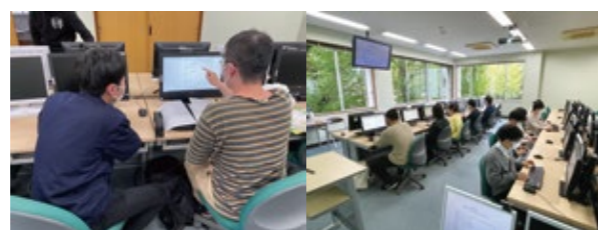
### 意思決定に 注目する

#### プロフィール

私は長野県飯田市の出身です。飯田市は長野県の南部に位置しており、赤石山脈と木曾山脈という大きな山脈に囲まれた長細い谷(伊那谷)の中にあります。どこを向いても大きな山に囲まれているような土地で育ったので、いまでも山を見ると心が落ち着きます。学生の頃は千葉県千葉市、大学院生と研究員の間は大阪府池田市で生活していました。昔から目的のない散歩が好きで、それぞれの街をよく歩き回っていました。大阪大学経済学研究科で学位を取得し、その後、日本学術振興会特別研究員として大阪大学経済学研究科および神戸大学経済経営研究所にてお世話になりました。そして、2019年から本学に勤務しています。

### ゼミでの活動内容

ゼミでの活動内容は、経済や社会に関する調査と、そのために必要となる知識や技術の学習です。まず基礎演習では、データ分析や数学的な分析などに活用するための基本的なプログラミングを学習しています。そして3年次にはチームで、4年次には個人で研究の対象やテーマを探索して、調査に取り組んでもらいます。銀行の合併、スポーツの戦略、化粧品の需要、といった様々な事柄への興味をきっかけに、良いテーマを探索するところからが学習活動になります。ゼミでの学習は、他の授業とは異なり、そもそも「何を調べるかを決める」という意思決定の重要性が高いと思います。そのため、文献をたくさん調べてみたら自身の興味と違った、分析の方法がわからない、分析がうまくいかない、といった困難に直面して、経験を通じた学習となるように意識しています。知識や技術と意思決定、それぞれの重要性を理解して、学問以外の活動にも活かしていただきたいと思っています。



### 研究テーマ

研究テーマは、人々の選択行動を説明することです。研究分野としてはミクロ経済学とよばれる分野で、これは経済現象の予測や説明をするために、理論を組み立てたり、関連するデータを分析したりする分野です。私は、ミクロ経済学の最も基本的な要素の一つである消費者の選択行動のモデル(効用最大化モデル)を研究しています。このモデルの考え方を大雑把にご説明すると、人々が何かを選ぶときには、その背後に嬉しさポイントのようなもの(これを「効用」とよびます)があり、人々はそのポイントを大きくするような行動をとる、という考え方です。要するに「人々は一番うれしいものを選ぶ」という自然な考え方です。これはあくまでもモデルなので、人々が実際に「嬉しさ」や「効用」だけを考えながら日々の意思決定をしているということではありません。しかし、このような考え方で人々の選択行動によく見られるパターンを表現できるため、完璧ではないにしても十分に便利です。そして、買い物における行動だけでなく、寄付のような社会的な意味を持つ行動や、不確実な状況での行動といった、様々な状況における意思決定を説明するために用いられます。さらに、この「効用」という考え方は数学の問題として扱うことができるため、数学やデータ分析の技術を行動の説明に活用できます。この考え方を初めて聞いたのは、学部で受けた授業でした。日常生活の説明と数学がつながっているということに驚きと面白さを感じ、このテーマに興味をもつきっかけとなりました。

## YASUDA SHIN

地域政策学部 観光政策学科 准教授  
安田 慎

研究分野/  
中東地域研究、イスラーム地域研究、観光人類学、観光史、観光政策

学位/  
博士(地域研究)(京都大学)

担当授業(学部)/  
観光政策論、観光学概論、ツアープランニング論、基礎演習、演習I・II



### 人生は思い通りに ならず、 流れゆくままに

#### プロフィール

出身地と言えものがなく、大学で教職員や学生の皆さんと話す時、いつも困っています。この前数えてみたら、人生で計15回、世界各地で在住経験があることがわかりました。

元々はヨーロッパ近現代史がやりたくて文学部史学科に入るも、部活を理由にした己の不勉強ぶりや、色々な経験をするうちに探検史や観光史に興味が出て、卒業論文では中央アジアを探検したイギリス考古学者の足跡を調べていました。その後は行ったこともないのに、日本で誰も知らない中東観光について研究すれば先駆的な研究者になれる、と盛大に「勘違い」して中東地域研究にシフトし、その過程で内戦前のシリアで、イラク人難民街がある聖地に住んでいました。その後は色々な大学で研究員や非常勤講師、専任教員としてお世話になり、2018年から高崎経済大学に在籍しています。趣味は放浪している人生を反映してか、観光・旅行であったり、ロードバイクでのロングライドだったりします。

### ゼミでの活動内容

ゼミでは、観光史・観光メディアを基軸に、現代の観光実践がいかに形作られてきたのか、そのなかで人びとはどういふことを考えながら観光をしてきたのか、旅行記やガイドブック、ポスターをはじめとする観光メディアを読み解いたり、観光政策の資料を紐解いたり、関係者へのインタビューを行うことで明らかにしています。何よりも、学生たちが自分たちの興味関心のある研究テーマや対象を調べていくなかで広がっていく世界観や人脈を、楽しそうに報告してくれることが、ゼミの最大の魅力だったりします。ゼミでの一連の研究の経験が、在学中や卒業後の人生の様々な場面で自信を持てるきっかけとなっている点で、短期的な成果に囚われない形で、学生自身の成長を促す契機となっているようです。こうした小さな経験を積み重ねていくなかで、学生の皆さんには観光の楽しみ方としての「ツーリズム・リテラシー」を習得して欲しいな、と思っています。



### 現在の研究テーマを選んだきっかけ

学部時代に色々な授業をとっていくなかで、観光や旅行について研究できないかと考えて、大学図書館の観光に関わる本を空コマに片っ端から読んでいたのですが、なかなかうまくいかなかった、というのを覚えています。大学院に進んで中東観光をと漠然と考えていたものの、研究対象や内容が決まらずに苦しんでいた時期が多かった気がします。その際、中東各地をめぐる観光の現場に飛び込み、シリアのある場所で、団体パッケージ・ツアーの巡礼客たちが、楽しそうに聖地を巡っている姿を面白いと思ったことが、研究対象を決めるきっかけとなりました。日本に帰ってから文献資料を調べると、実はこの現象を「観光」という観点からは分析されていない。これは調べると、現代社会の色々なことがわかるだけでなく、新たな視座を提供できるのではないかと考えてのめり込んだ形になります。その点、現場での「出会い」は本当に大切な、というのを感じる次第です。

### 研究テーマ

イスラームと観光、という大きなテーマの下で、イスラーム諸国や世界各地におけるイスラーム的価値規範に基づく観光実践の思想的展開や市場動向を、文献資料・フィールドワーク・理論研究を組み合わせた地域研究の手法に則って研究しています。その過程で中東地域研究だけでなく観光学にも触れるようになり、気付いたら中東だけに限らず、観光史や観光政策、観光メディアの観点から日本国内・国外のあらゆる観光現象も分析するようになっていました。最近では、中東観光の過去の旅行記を紐解く一方で、現代中東のエンターテインメント業の拡大の他に、中東やイスラームを事例に、新自由主義や現代社会を分析するようになっており、研究テーマは無数の広がりを見せています。そのうち、群馬県の観光地についても、研究成果を発信したいと考えていたりします。





経済学部国際学科3年 橋本 涼子

### 高校1年生から弓道を始めて、現在で6年目

#### 弓道を始めたきっかけと、高校時代

高校に入学してすぐ、様々な部活で新入生向けの体験会が行われました。たくさん体験した中で一番魅力を感じたのが弓道部でした。先輩方が優しくしたことや部員のほとんどが高校から始めていること、袴への憧れなど様々な理由がありますが、とても居心地がよかったことを覚えています。

はじめは、弓に触らせてもらえず基礎練習を繰り返し、的前に立つまでに半年かかりました。弓に触れるようになってからはさらに楽しくなって日々練習し続けた結果、高校2年生の時に、全国大会に出場することができました。途中何度か心が折れそうになりましたが、諦めずに練習し続けてよかったと今でも思います。

#### 大学に入学して

大学でも弓道を続けたいと思い、現在の高経大弓道部に入部しました。しかし、大学1年生の時は新型コロナウイルスの影響で、入部が先延ばしになってしまい、練習の開始が遅れてしまいました。さらには大会もすべて中止となり、やるせない思いでいっぱいでした。2年生になると、通常通り練習ができるようになって、大会はオンラインで開催するようになりました。正式な大会をオンラインで実施することに対してとても驚きましたが、いつも練習している環境が試合会場になるという点は、焦りや不安が減ってとても助かりました。

そんな環境に慣れ始めたころ、全日本学生弓道選手権大会が開催され、個人で決勝大会に進むことができました。決勝大会は名古屋市にある日本ガイシホールに於いて、対面で行われました。この全国大会を経験したことで気づいたことは、「勝っても負けても自分次第」ということです。弓道という競技は、相手が存在せず邪魔をしたり、されたりすることはありません。よく中れば自分のおかげで勝てるし、外せば自分のせいで負けてしまいます。だからこそ、自分の特徴をよく理解し、心身のコンディションを整えることが、より結果を残すために最優先ですべき

であると考えました。

そこからは、自分のキャパシティを理解したうえで練習することを意識しています。それにより、勉強やバイトを両立する中で、無理せず実力を高めていくことができていると感じます。このことは部活動だけでなく、これから社会に出ていく上でも意識できることだと思うので、とても有意義な経験をするすることができました。

#### 最後に

このような結果が出せたのも、充実した環境の中で行えたからこそだと思っています。広くきれいな射場を使用させていただきながら、師匠や先輩方からのご指導、同輩や後輩の協力により成長することができました。また、女将という立場になったからこそ学べたこともたくさんあるので、引退後も忘れずにいたいと思います。

結びに、私たちが充実した部活動を継続的に行っているのは、大学関係者様をはじめ、群馬県の弓道関係者様、OB・OGの皆様のおかげです。常に感謝を忘れず、部員一同これからも精進してまいりますので、応援のほどよろしくお願いいたします。



関根早貴  
経済学部経営学科4年

## 留学体験記

留学先：ドイツ（ルートヴィヒスハーフェン経済大学：LUBS）  
留学期間：2021年9月～2022年7月（約1年間）



### 留学で忍耐力や継続力を得ることができました！

私は、ドイツにあるルートヴィヒスハーフェン経済大学に2学期間留学していました。新型コロナウイルスが終息していなかったため、制約や不安がありましたが、無事に留学を終えることができ、安心してます。留学中は、ドイツ語やEUに関する授業を履修しました。放課後や休日は、現地学生や留学生と家でご飯を食べたり、ドイツ国内を旅行したりしました。この留学を通して得たものや私の留学がどのようなものであったかについて、3つ書きます。

まず、留学を通して一番重要だったことは、自分から主体的に行動することです。ピザ取得や友達作り、授業への取り組み方など、日本にいるとき以上に自分で考えて情報収集をし、そして行動しなければならない場面が多かったです。友達は待っているだけでは決まれません。自分の英語力に自信がなくても、積極的に行動することにより、友達ができました。友達との会話が最も英語力の向上に寄与したと思います。私の英語力は、十分なものではなかったため、英字新聞を読んだり、海外の情報番組を見たり、毎日コツコツと勉強しました。また、海外で生活するには、さまざまな手続きなどがつきものです。インターネットはもちろん、SNS、現地の学生などたくさんの媒体を通じて情報を集めました。このように、自分で考えて行動する力をつけることができました。

次に、さまざまな文化や価値観を知ることができました。ドイツは、中東からの移民や欧州の他の国々から来た多くの人が住

んでいて、多様性に富んでいる国でした。ドイツでは、日本での常識が通じないこともしばしばありました。例えば、ドイツの公共交通機関は遅延が当たり前です。日本では人種差別に遭遇したことはありませんでしたが、レイシズムを感じる場面もありました。そのような経験をして、日本では起こらないことに直面しても慌てなくなりました。たくさんの文化やさまざまな価値観を知り、視野が広がりました。

最後に、留学を経て一番感じる成長は、自分に自信がついたことです。海外に一人で行き、1年間生活することは決して簡単なことではありません。私にとって初めての留学だったため、渡航直前には不安でいっぱいでも何でもやめたいと思いました。留学中も思い通りに英語でコミュニケーションを取ることができなかったり、授業内容がよく分からなかったりしました。異文化の中で生活することの大変さや自分の英語力の未熟さから日本に帰りたと思うことも頻りにありました。しかし、毎日勉強を続け、目の前の課題から逃げ出さず、授業は一度も欠席しませんでした。そして、留学をやり遂げたことにより、忍耐力や継続力を得ることができました。さらに、それらを得たことが、自分自身に対する自信につながったと感じます。

この留学を通して英語力はもちろん、異文化に触れ、さまざまな知識や経験を得ることができました。これからさまざまな困難や問題に直面することがあっても、この留学で得たすべてのことを活かしていきたいと思います。







## NEWS 01 経済学科

### 高経大+高経附「高大コラボゼミ」 成果発表会を開催しました

高崎経済大学附属高等学校との高大連携事業「高大コラボゼミ」の成果発表会が、9月6日(火)に本学において開催されました。「高大コラボゼミ」は、経済学部の矢野修一ゼミナール3年生と附属高校3年生文系オナークラスの生徒がそれぞれの班に分かれ、半年間に渡って企業研究を行う取り組みです。今回の発表会では、企業訪問の調整にご尽力いただいた経営支援NPOクラブ、訪問を受け入れていただいたサトーホールディングス株式会社などの担当者様にもお越しいただき、発表内容について講評をいただきました。



## NEWS 02 経営学科

### 海外フィールドワークへ行きました

向井准教授と向井ゼミの学生が、8月29日～9月2日の期間でタイに海外フィールドワークに行きました。シングル・タイランドでは工場見学によって日系企業の海外製造拠点のマネジメントと戦略を学び、JETROバンコク事務所では現地の日系企業の概況についてヒアリングしました。さらに、市場、小売店、文化施設、病院といった場所に学生たちで行き、多くの経験をしてきました。



## NEWS 03 国際学科

### 国際学科海外語学研修 プレゼンテーション大会を開催しました

10月26日(水)「国際学科海外語学研修 プレゼンテーション大会」が開催されました。この大会は、国際学科の学生が海外語学研修で学んだ成果を発表するもので、最優秀賞は酒井蓮正さん(国際学科3年)の「サンディエゴのリアル」が選ばれました。酒井さんは「センシティブなテーマだったので、プレゼンでカバーしてわかりやすく伝えられた。それが評価されてうれしい。留学では想定外のことも含めて日本では経験できないことがたくさんあったので、これからも視野を広く持って勉学に励みたい」と話していました。



## NEWS 04 経済学会

### 3年ぶりに学術講演会を 開催しました

10月21日(金)に、3年ぶりとなる学術講演会を開催しました。オーストラリア国立大学名誉教授の武田真彦氏をお招きし、「ロシアに対する金融制裁の実効性」を演題として、ウクライナ侵攻以降、ロシアに課されてきた経済制裁を「実物制裁」、「金融制裁」、「決済制裁」の3つに区別したうえで、各制裁の具体的内容・効果について講演いただきました。質疑応答も活発に行われました。



## NEWS 05 地域政策学科

### 第7回 公務員志望者のための レクチャーミーティングを開催しました

佐藤徹ゼミ主催で、第7回 公務員志望者のためのレクチャーミーティングを開催しました。一昨年度、昨年度はオンライン開催でしたが、今年度はリアルで開催できました。当日は、3名のゲストスピーカー(現職の公務員)に本学にお越しいただき、現役公務員からみた民間の魅力と公務員の魅力、公務員に向いている人・向いていない人などについてお話しいただきました。



## NEWS 06 地域づくり学科

### 群馬県と文化振興に関する 意見交換会を行いました

友岡ゼミの学生と群馬県文化振興課が、群馬県が進めている文化振興指針の内容について、意見交換会を行いました。この意見交換会は、群馬県が新たな文化振興指針を定めるにあたり、若者の意見を反映させたいということで実施され、学生も積極的に意見を述べていました。



## NEWS 07 観光政策学科

### 高崎警察署から学生に 感謝状が贈られました

チャン・ヴァン・ヴィンさん(観光政策学科3年)が特殊詐欺の被害を未然に防いだとして、高崎警察署から感謝状を贈られました。チャンさんは、アルバイト先で、電子マネーカード7万円分を購入しようとした方に詐欺被害を疑い、警察に連絡するよう勧めたそうです。チャンさんは「助けることができてよかった。今後も怪しいと感じたら警察に連絡したい」と話していました。

## NEWS 08 観光政策学科

### 西野寿章教授が人文地理学会賞 (学術図書部門)を受賞しました

西野教授が2020年に刊行した『日本地域電化史論』が人文地理学会賞(学術図書部門)を受賞しました。西野教授の学会賞受賞は、2011年の日本地理学会賞(優秀論文部門)、2013年の地理空間学会賞(学術図書部門)に続いて3度目の受賞になります。西野教授は「定年退職に花を添えていただきました。」と感想を述べています。



## NEWS 09 地域政策学会

### 地域政策学会学生委員会を 立ち上げました

学会活動に学生の意見を取り入れることならびに学生の新たな活躍の場を設けることを目的として、新たに学生委員会を立ち上げました。立ち上げ時から多数の学生が参加し、学術文化講演会の企画・運営、オリジナル冊子『REGIO(レギオ)』の編集をしました。今後は、情報誌『APPROACH』の編集などにも関わる予定です。







## 鶴鷹祭

第56期体育会本部 代表幹事  
経済学部4年 塩浦 廉也

鶴鷹祭とは、都留文科大学・高崎経済大学を交互に競技会場として行われる総合体育対抗戦のことであり、非常に歴史のある大会となっております。昭和48年に山梨県の公立大学、都留文科大学の体育館落成記念として空手道部を中心とした対抗戦として始まり、以降徐々に参加団体が増え、第20回大会を機に都留と高崎の文字を「鶴」と「鷹」に置き換え、鶴鷹祭と命名されました。

第25回大会以降、それまで行われていたオープン戦が廃止され、鶴鷹祭は両校の名誉と威信をかけて行われる真剣勝負であるというコンセプトに移り変わってきました。両大学とも公立大学であり、有名私立のように運動に重点を置く大学ではありませんが、どの部活も総合優勝を目指して日々の練習の成果を発揮して一生懸命戦います。

現在までの総合成績は都留文科大学24勝、高崎経済大学19勝、2引き分けとなっております。高崎経済大学が累積で負けの形を取っております。しかし、2016年に開催された第42回鶴鷹祭で高崎経済大学が総合優勝を果たし、まさに破竹の勢いで4連覇という功績を築き上げてきました。しかし、新型コロナウイルスの影響により、3大会連続の中止を余儀なくされ、非常にやりきれない気持ちでいっぱいです。

伝統ある鶴鷹祭が、来年度こそ開催されることを切に願っております。



# 鶴鷹祭

# 三扇祭

2022年

## 鶴鷹祭 & 三扇祭 結果報告

### 3年ぶりの対面開催 三扇祭の新たな旅立ち

第65回三扇祭実行委員会 委員長  
地域政策学部3年 戸嶋 宏樹



2022年度の三扇祭を10月28日から30日の3日間、本学構内にて3年ぶりとなる対面形式で開催いたしました。

図書館前広場に特設ステージが復活し、ゼミナール・サークルが普段の活動の成果を発表する一般企画や学生有志による工夫を凝らした模擬店が大学構内を賑わすなど、久しぶりに大学に活気が戻りました。また、節目となる65回目の開催を祝すとともに新型コロナウイルスの収束を願い、29日夜に花火を打ち上げました。3日間を通じて天気にも恵まれ、地域内外から多くの方にご来場いただきました。

第65回三扇祭テーマは「Bon Voyage!」です。フランス語で「よい旅を」を意味する挨拶です。三扇祭で日々の煩わしいことを忘れて、久々に旅を楽しんだかのような満足感を得てほしいという願いが込められています。

学生の大半がコロナ禍以降の入学となり、三扇祭の伝統とノウハウが失われはじめてきた中で、それぞれが三扇祭の新しい形を模索し、3年ぶりの開催を迎えることができました。今年三扇祭にとっての新たな旅立ちの第一歩を踏み出した1年であったと思います。来年度以降、本学の新たな伝統として未永く続いていくことを祈念しております。

最後になりますが、未だに予断を許さない情勢の中で第65回三扇祭の開催にご尽力いただいた皆さま、ご来場いただいた皆さまに対し、この場をお借りして実行委員を代表して御礼申し上げます。



## たがけい INFORMATION

### 大学事務局からのお知らせ

#### 「食」に対するの支援を行いました

新型コロナウイルス感染症防止対策の経済的支援策の一環として、令和4年10月17日(月)～21日(金)の間で「食」に対する支援を実施し、約1500人の学生に食品を配布しました。

●問合せ先/教育グループ学生支援チーム 027-344-6262



#### 福井県と就職支援協定を締結しました

福井県と相互に連携・協力を努め、学生に対し福井県内の企業情報等を提供するなど就職活動を支援することにより、福井県出身学生を中心にUターン就職の促進を図ることを目的として、就職支援協定を締結しました。

●問合せ先/教育グループキャリア支援チーム 027-344-6263



#### 高崎経済大学三扇基金へのご寄附のお願い

本学では、教育環境の整備、学資の貸与や給付、就職活動への支援、課外活動の充実及び甚大な災害により被害を受けた学生への特別な支援を目的とした「高崎経済大学三扇基金」を設置しております。卒業生の皆様、地域の皆様をはじめ、広く高崎経済大学関係者の方々にお力添えをいただければ幸いです。基金の詳細に関しましては、本学のホームページをご確認いただくか、経理チームまでお問合せください。本基金の趣旨をお汲み取りいただき、皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

●問合せ先/総務グループ経理チーム 027-343-5416 (kikin@tcue.ac.jp)

### 健康診断について

4月に定期健康診断を実施します。全日程、予約制です。詳しい予約方法については、3月上旬にポータルサイトのほかホームページでお知らせいたします。健康診断の結果は、就職活動・実習・大会参加・留学関係・バイト関係等、様々な場面で必要となりますので、必ず受けてください。

- ◎予約開始日時：3月15日(水) 12時から
- ◎健診受付時間：各日、午前の部 9時から11時30分  
午後の部 1時から4時
- ◎健診に要する時間：おおむね40分
- ◎健診受付場所：7号館2階

●問合せ先/  
保健室 027-343-5418 (hoken@tcue.ac.jp)  
学生サポートルーム 027-344-7502 (supportroom@tcue.ac.jp)

### 学生相談について

学生生活におけるあらゆる相談を受け付けています。公認心理師等が、心の不安、人間関係に関する悩みなどをお伺いいたします。保護者からのご相談もお受けしています。学生と一緒に、もしくは保護者の方のみでも構いません。個人にかかわる相談内容等の秘密は厳守しますので、安心して相談してください。

●問合せ先/学生サポートルーム  
027-344-7502 (supportroom@tcue.ac.jp)

### 障害学生支援について

障害等の理由により、修学上の支援が必要な学生に対し様々な支援を行っています。支援を希望する方は、学生サポートルームにご相談ください。本人の状況を考慮し、対応方法を検討します。

#### ○主な支援内容

①視覚障害	・ノートテイク、授業資料等のテキスト化、代筆・代読 ・定期試験時の支援(時間延長、問題の読み上げ等)
②聴覚障害	・ノートテイク、 定期試験時の支援(リスニング試験等の配慮)
③発達障害	・講義の録音許可、パソコン筆記の許可、 連絡の個別伝達、座席の配慮

上記以外の障害・支援内容についてもご相談ください。  
※相談は、面談のほか、Web、電話、メールでも行うことができます。

●問合せ先/学生サポートルーム  
027-344-7502 (supportroom@tcue.ac.jp)



## 学生ボランティア活動について

「大学生活を充実させたい」「仲間に会いたい」「興味があるけれどどうやって探したらいいかわからない」などボランティアに関する様々な相談に乗っています。ボランティア活動を通して、授業やアルバイトでは得られない経験をしてみませんか。興味のある方はボランティア支援室まで！

### 令和4年度 活動実績

学生ボランティア登録数	418人(令和4年10月現在)
派遣人数	505人(令和4年10月現在)



(たかさきハロウィン実行委員の高経大メンバー)

### 主な活動先

高崎市環境フェア2022、高崎まつりボランティアリーダー、たかさきハロウィン実行委員、キングオブパスタ、放課後学習会の学習支援(高崎市立北部小学校ほか2校)

- 問合せ先/学生ボランティア活動支援室  
027-329-6714 (volunteer@tcue.ac.jp)

## 同窓会からのお知らせ

### 支部総会の開催について

今年度各地で開催された、同窓会支部総会です。

支部	開催日	開催場所	形式
東京支部	10月15日(土)	ワテラスコモンホール	ハイブリッド形式
広島支部	10月22日(土)	ホテルメルパルク広島	対面
大分支部	10月29日(土)	城島高原ホテル	対面(会員のみ)
桐生支部	10月29日(土)	美喜仁館本店	対面
関西支部	11月12日(土)	新大阪ワシントンホテルプラザ	対面
鹿児島支部	11月12日(土)	ホテルレクストン鹿児島	対面
長野支部	11月12日(土)	ホテル信濃路	対面
静岡支部	11月19日(土)	ホテルシティオ静岡	対面
愛媛支部	11月20日(日)	ANAクラウンプラザホテル松山	ハイブリッド形式
飯田支部	11月26日(土)	ホテル弥生	対面
徳島支部	1月21日(土)	阿波踊り会館	対面
札幌支部	2月18日(土)		オンライン形式

- 問合せ先/同窓会事務局(学生支援チーム) 027-329-6693



同窓会に関する情報はこちら

## 後援会からのお知らせ

### 令和4年度の活動トピックス

#### 「支部総会」を開催

支部総会を3年ぶりに6支部(関東甲信越・東北・北陸・東海・山陰山陽・北海道)で開催しました。支部総会では後援会からの決算・予算の報告や大学からの現況報告のほか、保護者向けセミナーとして「学生の就職」に焦点をあてた就職情報会社による講演やOB・OGによる就職体験談などを聴いていただきました。

#### 「学生応援チケット」を配布

長引くコロナ禍に物価高が追い打ちをかけるなか、生活に困窮する学生への支援を行うため大学と共催し、生協での食事や購買に利用できる「学生応援チケット」(1人4,000円分)を配布しました。学生を取り巻く生活環境は今後とも厳しい状況が予想されますので、引き続き支援を行っていく予定です。

#### 保護者の皆さんへ「就職情報の提供」

学生就職に関する情報提供として、3年次生の保護者へ「保護者版・就職ハンドブック」を配布し、2年次生の保護者へ「就職ハンドブックのダイジェスト版」を昨年に引き続き配布しました。御一読いただき、昨今の学生の就職事情をご理解ください。

#### 大学へ「大型プロジェクター」を寄贈

1号館及び7号館の大教室に「大型プロジェクター」を寄贈しました。老朽化に伴い授業運営に支障を来たしていましたので、大学からの要望を受け行ったものです。

後援会では、今回のような緊急に改善を要する教育施設の整備など、学内環境の改善に向けた支援を今後とも継続していく予定です。

### TOEIC及び外国語検定試験成績優秀者表彰

TOEIC公開テストで700点以上を獲得した学生及び外国語検定試験(ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ハングル及びイタリア語)を受験して優秀な成績を収めた学生に表彰状と記念品を贈呈します。

### 高経会館の利用について

大学より徒歩5分に建つ宿泊・研修施設です。宿泊室は全て個室となっており、学生だけではなく、保護者や同窓生もご利用いただけます。

宿泊予約する場合は下記後援会事務局まで電話にてお申込みください。

### 令和5年度の支部総会について

令和5年度の支部総会の開催については、新型コロナウイルスの感染状況などを考慮の上、7月中旬をメドにホームページ及び保護者宛の通知にてお知らせする予定です。

- 問合せ先/後援会事務局 027-344-7902

今回の表紙

撮影:写真部 山本怜奈さん(経済学部国際学科)

